

「自閉症支援のための現場評価キット」の活用

津久井やまゆり園

虫賀 信也 深瀬 恒 榎本 裕哉 蝦名 大恵 飯田 郁乃
杉本 秀貴 武内 由夏 小針 和臣 岸本 美樹
宮田 かずみ 鈴木 剛史 中島 健太 永井 真司 宮崎 剛志

1. 初めに

自閉スペクトラム症(ASD)の方は、「生物学的な背景による特異な行動」⇒「障がいへの無理解による誤った対応」⇒「ストレスによる困った行動の出現」⇒「困った行動に対する罰行動」⇒「行動障がいの複雑さが拡大」⇒「強度行動障がいに発展」という流れが起こりがちであることが指摘されている。

本研究活動の参加メンバーは、「利用者さんの意思をもっと知りたい、利用者さんに分かりやすく伝えたい。」あるいは「生活場面で場にふさわしくない行動・他の人が困る行動を取る自閉スペクトラム症(ASD)の方をもっとよく理解して支援したい。」「利用者さんの障がいとその支援についての職員間で統一したイメージを持ちたい。」「入所施設でも地域生活のような“利用者さんの安定や安全”と“より自立性・社会性の高い生活”を目指す支援を両立させたい。」と考えていた。

そのような中で、“自閉症支援のための現場評価キット A1”の存在を知り、活用してみることにした。また、可能な範囲で心理検査との比較検討を行った。

2. 自閉症支援のための現場評価キット A1 (15 歳以上の青年・成人用) (重度の知的障害を伴う)について

「自閉症支援のための現場評価キット A1 (15 歳以上の青年・成人用) (重度の知的障害を伴う)」(以降“評価キット”と記載)は、自閉症 e サービスが開発・編集したもので、“現場で簡易に使える評価課題のパッケージ”であり以下のように説明されている。

50 個程度の評価課題・活動という内容で、実施には 1 時間～1 時間半を要し、支援現場で期待されるさまざまなスキル・態度を評価する。

基礎調査票と組み合わせて、新規の方への初期評価のツールに使い、より妥当で実践的な支援計画の立案に寄与する。さらに、施設コンサルテーションや問題行動への対応においても、積極的に活用できる。

標準化された心理検査ではない。スコアの集計は目安であり、利用者の取組み方の質的傾向と有効な現場支援の手立てを確認することが目的となっている。

別紙資料 1:「自閉症支援のための現場評価キット実施方法および記録用紙」

別紙資料 2:「評価キットの活用」

評価課題・活動に使う用具は、1つの大きな容器にまとめて入れられている。下の写真のように予めそれぞれ専用のトレイに分けておくと、利用者に対してスムーズに評価セッションを進めることができる。

令和4年度 職員研究活動支援事業③



3. 研究活動

研究活動は大きく5項目に分かれる。

- (1) 評価キットの学習会開催
- (2) 評価のための研修会参加への職員参加
- (3) 実際の評価
- (4) 職員の意識調査アンケート
- (5) 活動(学習会)参加者による検討

4. 評価キットの学習会開催について

予め年間計画を立て、月に1~2回延べ23回開催し、3名を中心に平均4.2名の職員が参加した。「評価キットに関わる資料の読み込み」、「職員同士による模擬評価セッション」、「了承が得られた利用者の模擬評価セッション」、「評価動画の視聴と模擬評価」、「意見情報交換」等を適宜行った。

ASDの特性について、ASD支援について、評価キットそのものについて、評価キットの使い方について、評価道具の提示の仕方や利用者への言葉かけについて、実際の評価セッションを通じて感じたことについて…等々、それぞれが意見や考えを述べ合った。

参加後の感想には、評価キットについて期待や懸念等さまざま内容が現れている。また、参加して自分の意見や考えを表明できたことと他の参加者のそれらを共有できたこと自体が、有益であると感じたことがうかがえる。

5. 評価のための研修会への職員参加について

生活課の2名の職員、および地域サービス課の1名の職員が、評価キットの活用方法を学ぶために以下の研修会に参加した。

テーマ:「自閉症評価セミナー 対面でのモデル実技」

主催:自閉症eサービス@かながわ

期間:第1回令和4年6月18日~19日の2日間

第2回令和4年11月12日~13日の2日間

場所:第1回横浜市的一般社団法人 みのりの里 地域活動支援センターゆんた

第2回藤沢市内の社会福祉法人 光友会 発達支援センターリエール

内容:1日目…講義「評価キットの活用」

2日目…評価実技、支援プランの検討

別紙資料3:「自閉症eサービス@かながわ 自閉症の評価セミナー対面モデル実技」

6. 実際の評価について

「自閉症評価セミナー 対面でのモデル実技」に参加した3名の職員が、それぞれ異なる3名の利用者者に以下の概要で評価セッションを行った。

場所:活動室を別紙資料1に記載された“セッションルーム”に準じて整える。

方法:予め各問題をそれぞれ専用のトレイに準備して置き、すみやかに提示。動画撮影し、後で複数の目で評定を行う。

回数:どの利用者にも10問程度、2~3回に分けて実施

セッションのまとめや自閉症の特性へのまとめは実施者が中心となり、必要に応じて他のメンバーと学習会の中で検討した。

(1)利用者Aについて

男性35歳、精神年齢2歳2ヶ月相応(田中ビネー検査 24歳時実施)、社会生活年齢2歳5ヶ月相応(S-M社会生活能力検査 34歳時実施)

起床直後、マットレスと布団を排尿で濡らし交換する。朝食後にアクティビティシステム(現物カードを用いて日課の中で自立課題を自らい終える仕組み)を実施し、日中活動室に往復する。その後コーヒー・お茶のルーチンを経て昼食に進み、昼食後は食堂や廊下で排尿後マット交換を繰り返す。13時半には再度日中活動室に往復し、その後入浴、おやつ、夕食へとスムーズに進む。この際には情緒が安定しているのか笑顔が見られる。夕食後は廊下のマット交換、衣類への排尿と着替えを行い、その後服薬、職員の手伝いを受けながら就寝する。(2023年5月現在)

令和 4 年度 職員研究活動支援事業③

(2)利用者 B について

男性 46 歳、精神年齢 3 歳 2 ヶ月相応(田中ビネー検査 31 歳時実施)、5 歳 8 ヶ月相応(グッドイナフ人物画知能検査 32 歳時実施)、社会生活年齢 3 歳 8 ヶ月相応(S-M 社会生活能力検査 45 歳時実施)

毎週 2 回、園外の生活介護事業所に通所している。園内の日中活動では、ワークシステムに沿った自立課題に取り組んだり、散歩に行ったりしている。自販機での飲み物の購入や近隣店舗での菓子や飲み物の購入を定期的に行っている。飲食や散歩以外には、音楽がお好きな様子で、80 年代の歌謡曲や童謡を聴かれると笑顔が見られる。

(3)利用者 C について

男性 41 歳 精神年齢 IQ20 以下(田中ビネー検査 17 歳時実施)、社会生活年齢 2 歳 10 ヶ月(S-M 社会生活能力検査 40 歳時実施)

概ね穏やかに過ごすものの、ご自身の希望通りに物事が運ばないと自分で頭を叩くなどの行動がある。日常生活においてスケジュールボードを利用して、一日の予定を職員とともに確認する。ユニットで日用品の補充等の職員のサポートに積極的に取り組む。

週末には居室でエアロバイクを使って運動を行い、健康維持に取り組んでいる。毎週木曜日には父との面会があり、月に一度帰宅している。

日中活動場面では自立して活動へやってきて、スケジュールを手掛かりに自立して活動に取り組む。日課は本人のルーチンで動き、受診や家族面会など本人の予定と噛み合わない時など自分で頭を叩くなどの行動が見られる。

7. 職員の意識調査アンケートについて

ASD の方の評価に関わることについて現状を把握することを目的として、「ASD の理解と支援について」の表題で、津久井やまゆり園の職員を対象にグーグルフォームを活用したアンケートを実施した。質問項目及び結果は別紙の通り。

回答数 38 件(職員 161 名中)、回答率 23.6%だった。

以下の事柄がアンケートの回答から読み取れると考える。

- (1)3 割に満たない回答率から、アンケートそのものに対する認知(周知)不足や関心の低さ。
- (2)ASD の特性とされることについては一般的な内容が理解され、一人一人の違いがあることも分かった上で支援している職員もいる。(質問 3、6 の回答傾向より)
- (3)半数以上の職員が台帳(アセスメント)や他の職員からの意見を参考に支援を行っている。一方で半数弱の職員は自分の経験や感覚を基に支援している。(質問 2 の回答傾向より)
- (4)7 割以上の職員が評価キットの類があれば「使用したい」と考えていることから、直接支援に基づかない評価方法に“関心がある”。(質問 7 の回答傾向より)
- (5)一方で、2 割近い職員が、支援しながら評価する方法がよいと考え、実際の支援中の、あるいは支援による自分自身の感覚・実感を重視していることが読み取れる。(質問 2、7 の回答傾向より)
- (6)“利用者进行评估”ことについて、職員によって様々な考えがある。
- (7)もっとよりよく理解したいという気持ちは、回答した職員の 8 割近くが持っている。(質問 8 の回答傾向より)

8. 評価セッションを行った職員より

(1)職員 A

① 評価キットを利用しようと考えた理由

「周りが困る、減って欲しい行動があった。加えて担当している利用者の理解と支援に職員間で差

令和 4 年度 職員研究活動支援事業③

があった。評価キットを用いた評価ならば、理解と支援の統一を図るのに役立つのではないかと思った。」

② 評価キット使用前後の利用者像の変化

「自分自身の本人理解の内容はあまり変わらない。」

③ 支援の変化

「コンサルタントに、自分の行った結果から本人を評価してもらい、ユニット内でスケジュールやアクティビティシステムを導入することになった。本人が人(支援者)ではなくシステムに頼ることになって、行動が落ち着いた。」

④ 評価キットについて

「ASD の特性とされている項目だけに落とし込む評価方式に疑問を感じた。」

(2)職員 B

① 評価キットを利用しようと考えた理由

「意思決定支援で、利用者さんの意思をもっと知りたい、利用者さんに分かりやすく伝えたいと思った。そのためには、もっと本人のことをよく知るために有益ではないかと思った。ASD 支援の技術を上げたいと思う。」

② 評価キット使用前後の利用者像の変化

「言葉を理解していると思っていたが、状況を手掛かりにして行動していることが、評価を通して分かった。」「普段の様子から、本人のことを分かったつもりになっていた。」

③ 支援の変化

「支援の変更はこれから取組む予定。」「より自立的な生活を送れるように支援していきたい。」

④ 評価キットについて

「支援を見直す時に有用だと思う。」

(3)職員 C

① 評価キットを利用しようと考えた理由

「強行研修でも言われている通り、支援にはまずは評価が大切と考えた。現場職員レベルで使える客観性のある評価方法を学び、本人理解に繋げたい。」

② 評価キット使用前後の利用者像の変化

「評価前はこだわりが強く、変化に弱い人、常に同じじゃないと難しい人というイメージ、なんとなく言葉は理解出来ていると思っていた。」
「評価に合わせて日中活動のシステムを本人の得意に合わせて完全に組み直すことで、バリエーションに富んだいろんな自立課題、スケジュールの変更、受診での中断なども柔軟に対応できるようになった。今後可能性を感じる事ができた。」

③ 支援の変化

「本人の力を引き出すには適切な評価に基づく支援が大切。「自閉症の方の普段の行動面を見て、特性と結び付けた支援のアイデアが見えてくるようになった。よりひとりひとりの理解が出来るようになった。」

④ 評価キット使用による自分自身の考え方・見方の変化

「視覚的な手掛かりを使うことで、よりこちらの意図を伝えることが出来る実感できた。」「自閉症の特性を知ることで、問題行動についてもその人の理解と解釈に繋がった。これが分かっていると、問題行動に直面した時に、本人に対し恐怖や大きなストレスを抱え、現場では支援に行き詰まってしまうこともあるのだろうと思った。」

⑤ 評価キットについて

「自閉症評価キットを使った評価はすべてではないが、その人をよく知る大きな手掛かりになると感じた。」「自閉症の理解すらない見立てでの外れな支援をしてしまうことに比べれば、遥かに客観的で根拠ある有効なツールであると感じた。」

9. 評価キットについての意見

(1) 肯定的な面

- ①生活や日中活動の支援現場では分かりにくい利用者のことが分かる。
- ②ASD 支援の経験が少ない場合にも理解に役立つ情報を得ることができるので、支援を速やかに構築できることに繋がる。
- ③利用者理解と支援の見直しを体系的に行えるようになる。
- ④コンサルテーションを受ける際に利用者のことを簡潔に分かりやすく伝えるための資料となる。
- ⑤特別な資格など必要としないで実施できるので、現場職員が使ってみようという気持ちになれる。

(2) 改善されるとよい面

- ① 評価場面(評価セッションルーム)に来ることができない人にも使えるようになるとうい。
- ②その人自身の特徴も評価できるようにすることで ASD の特性をより広く理解できるようになるとよい。

10. 心理検査について

(1) 標準化されている

理論的な研究を経て、統計的に妥当性と信頼性が検討されている。

(2) 知能、発達段階、言語能力、視覚機能、社会生活技術、精神機能、心理状態、性格等を評価するものがある。

(3) 知的能力(発達段階)や言語能力の検査では、相応の精神年齢を出すことが出来、同年代や異年代との比較ができる。

(4) 多様なタイプが考案されている。

①本人に取り組んでいただく方式: 田中ビネー検査、ウェクスラー系知能検査、描画検査、ロールシャッハ等

②本人がチェックする方式: Y-G 性格検査、感覚プロフィール(本人版)等

③支援者がチェックする方式: S-M 社会生活能力検査、ヴァインランド- II、感覚プロフィール(家族・支援者版)等

④多くは本人の遂行した課題の結果および本人への質問に対する言語反応の結果から評価するが、遂行した課題の結果のみから評価する方式や言語反応の結果のみに基づいて評価する方式もある。

ア言語反応のみ: 絵画語り発達検査等

イ遂行した課題の結果のみ: コース立方体組合せテスト等

(5) 検査室で実施する検査はマニュアルが明確化され、環境の手がかりのない状況での被験者の力を測れるように作られている。

(6) 実施するには一定の資格や業務経験を求めている場合が多い。実施方法の講習を受け練習することが技能習得に必要で、練習すれば誰でも利用できるわけではない。

(7) 公的機関や医療機関で使用されている検査もある。

11. 評価キットへの期待

(1) 利用者 A、B、C とともに支援と評価を継続する。

(2) 他の職員も ASD の利用者へ評価キットを用いた評価に関心を持ち、評価結果および経過を踏まえた支援方法をユニット内で考えていく。

令和 4 年度 職員研究活動支援事業③

- (3) 支援を実践し、利用者の変化を基により自立的な行動とそのための支援を検討していく。
- (4) 他の職員も、評価キットの結果に基づく支援の振り返りを行う。
- (5) それらの取組みが、評価キットの“評価”をより適正なものに近づけ、利用者支援の見直しにも繋がる。

12. 勉強会最終日での意見

- (1) 「ASD の障害の本質は何なのか？」という疑問
- (2) 「他の評価ツールも学んでみたい。」という意欲
- (3) 「ASD のことをもっともっとよく知りたい。」という願い
- (4) 「他の人たちも ASD に興味を持って欲しい。」という期待
- (5) 「ASD の人を理解できると楽しくなる。また、ASD の人が笑うと嬉しくなる。」ことを実感してほしい。

13. 評価についての仮説

- (1) 評価キットを使用した 3 人の現場職員の感想はまちまちであり、大きな有用さを感じている内容も、限定的に有用さを感じている内容もある。
- (2) 利用者の特性や個性によるというより職員の評価に関わる認識の違いが、評価キットの利用後の感想や利用意欲にも関わる。
- (3) 評価に関わる認識の違いは、結果的に職員の利用者理解の差を生む。
- (4) どのように利用者を理解しているか、それに伴う利用者への感情の違いが支援の違いおよび職員利用者関係の違いを生む。
- (5) それに呼応して、利用者が職員を選ぶ行動や利用者の混乱に繋がることがある。
- (6) 利用者や利用者の生活・人生をどう思っているかという認識(価値観≒人権意識)および支援者の仕事観・人生観が評価や支援にも関わる。
- (7) 利用者进行评估することが目的ではなく、利用者がどう生活していくか、および利用者をどう支援していくかを検討するための手段である。
- (8) 利用者のどのようなことを、どう評価するか(評価のためのツールを利用するかしないか、利用するとしたらどのようなツールを利用するか)は、利用者をどう支援しようとするかという意思や考えと関係している。

14. 参考

- (1) 「知的障がい・自閉スペクトラム症 寄り添い支援のまなざし 障がい者支援のプロから学ぶ実践力」(飯田雅子著)、
- (2) 「強度行動障害支援者養成研修[基礎研修・実践研修]テキスト 強度行動障害のある人へ「暮らし」を支える参照」(特定非営利法人 全国地域生活支援ネットワーク 監修)

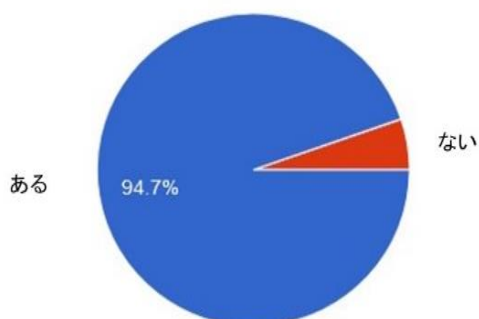
自閉症(自閉スペクトラム症)の理解と支援についてアンケート

自閉スペクトラム症の理解と支援に関するアンケートにご協力をお願い致します。結果は、地域サービス課の永井(心理)が事務局となって取り組んでいる令和4年度法人研究援助事業で認められた研究の資料として活用し、園の支援力の向上に活かされるようにします。回答者が特定され、人事評価に使われることはありません。

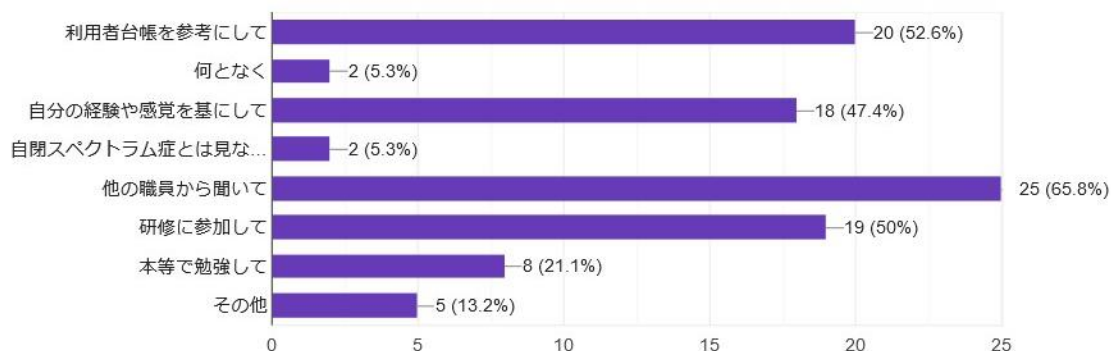
地域サービス課 心理担当 永井真司

1. 自閉スペクトラム症の方の支援に関わったことがありますか？ (選択形式)

38 件の回答

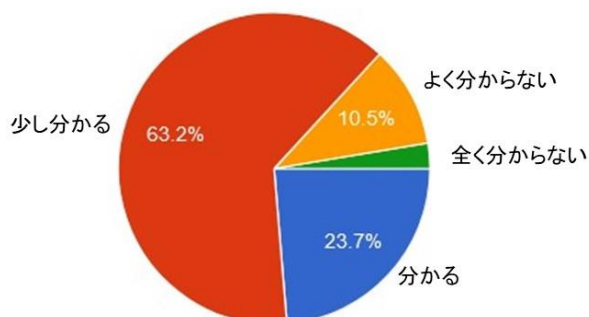


2. 1であると答えた方に聞きます。自閉スペクトラム症の方をどのように支援していましたか？ (複数選択形式)



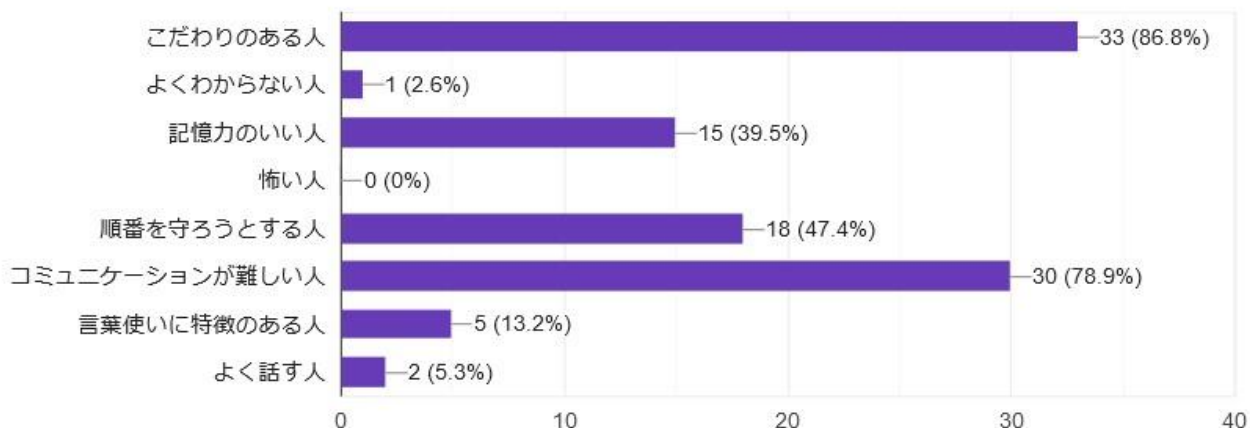
3. 自閉スペクトラム症の方の特性が分かりますか？ (選択形式)

38 件の回答



令和 4 年度 職員研究活動支援事業③

4. あなたの自閉スペクトラム症の方のイメージを教えてください。(複数選択形式)

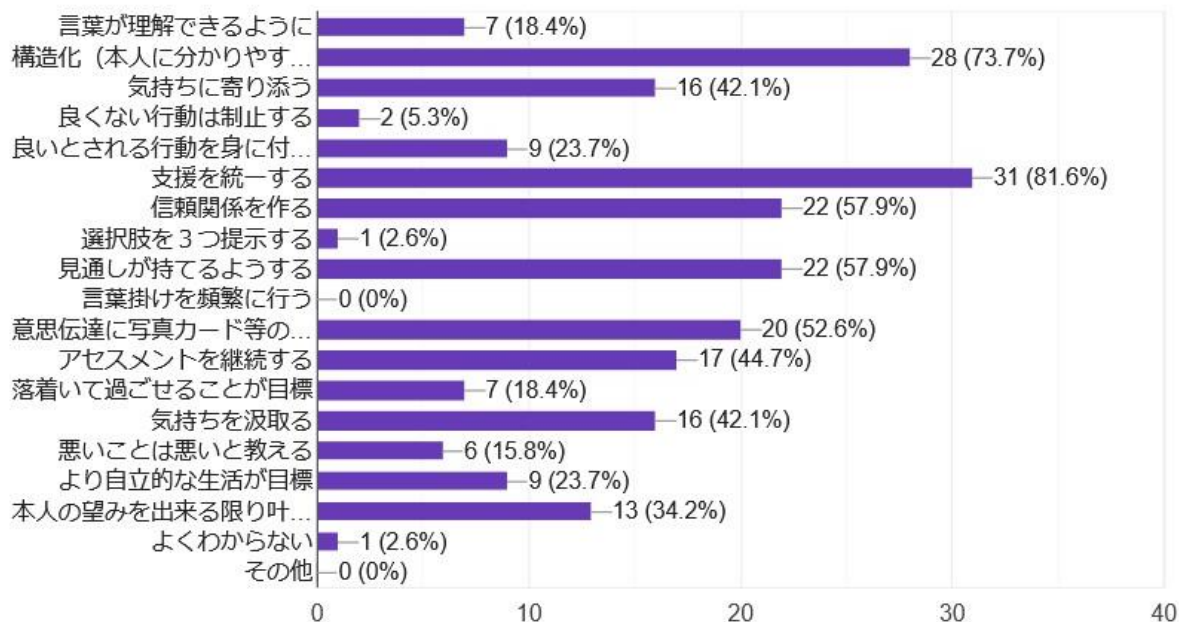


5. 自閉スペクトラム症の方について4の回答以外に何かあれば書いて下さい。(自由記載形式)

【回答】

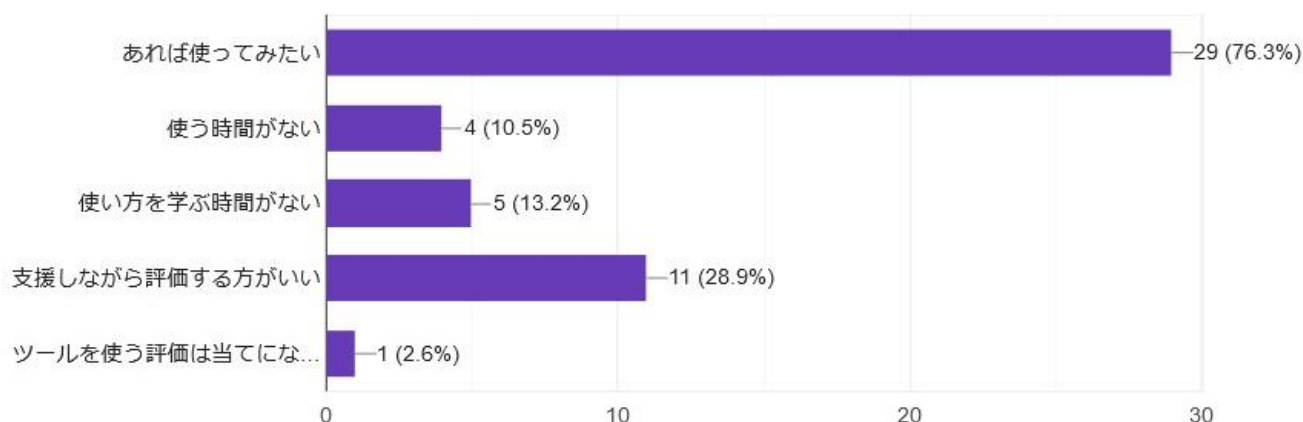
- ・ 元気な人
- ・ 記憶の仕方が独特な人
- ・ 集団行動が難しい方
- ・ 視覚情報が優位な方が多い。抽象的な理解や、他者の思いを汲み取るなどといった、目に見えないものの理解が難しい。
- ・ 融通が利かない、考え方に偏りがある。整理整頓ができない(違う人もいる)ルールから外れると事を嫌う。偏っているが好きな事の記憶力がいい。ルーティンを崩す事嫌う。
- ・ 人によってできる事出来ない事が違う、人によっては自閉症スペクトラム症かわからないほど能力が高い事がある
- ・ 実行機能(物事の手順、見通し持てない)中枢性の問題(全体を把握できない、複数の情報が入らない)等
- ・ パニック等、興奮した時は相手の話を聞き、否定しない

6. 自閉スペクトラム症の方の支援についてあなたの考えに近いものを選んでください。(複数選択形式)



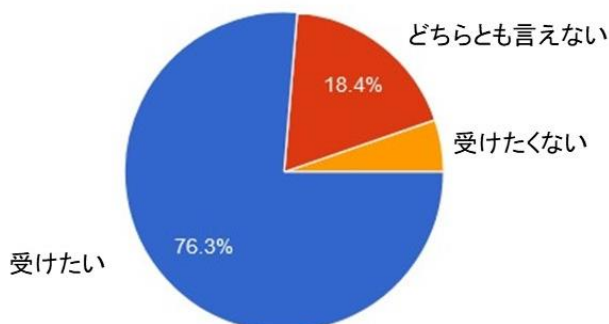
令和 4 年度 職員研究活動支援事業③

7. 自閉スペクトラム症の方の自閉症の特性について分かるツールがあれば使いたいですか？（複数選択形式）



8. 自閉スペクトラム症の方のよりよい生活や自立的な生活の実現に向けて、あなたより評価や支援経験の多い人からのアドバイスを受けたいですか？（選択形式）

38 件の回答



9. 自閉スペクトラム症の方への評価や支援で思うことがあれば、どのようなことでもお書き下さい。（自由記載形式）

【回答】

- ・ 利用者のアセスメントの確認、評価が大切ではないかと思えます。
- ・ 今はうまくやれています
- ・ 難しいコミュニケーションをどのように支援し、他者と共存生活をしていくかの指針があれば助かります。
- ・ 施設内にある本人の情報が少ない
- ・ 支援者として自閉スペクトラム症の知識は持つておくべきだと思いますが、実際の支援の場では本人自身にしっかりとフォーカスすることが重要だと思っています。スペクトラムというだけに、人それぞれだと思うので・・・
- ・ 自閉スペクトラム症は様々な障害を総称しているので、一概にこれと決めつけて支援をしないように一人ひとりに着目していきたい。
- ・ 本人の理解の仕方をアセスメントして、情報を伝える際に相手の理解の仕方に合わせて対応する。取り組みの中では、極力支援者が統一した対応を行い、不要な混乱を与えない。

令和 4 年度 職員研究活動支援事業③

- 本人の興味や関心に繋がる可能性があることやもう少しで一人でできそうといった部分に着目し、支援を通して自立的な活動につなげていく。職員含め、他者に干渉されず、自信を持って行える活動を増やしていくことが、ご本人の生活の安定に繋がると考える。
- 距離感を保つ
- 拘りや偏った考え方、などで集団生活などに支障が出るが、重度の人は手厚い支援がされるが、軽度の人はその支援が薄い中で地域にいる。一番手薄な人たちが犯罪や自殺などに追い込まれてしまう事があると思う。その部分でもっと軽度な人たちの支援は大切ではないかと思う。共生の社会とうたっているポスターを観るが、そういった人達ももっと住みやすい地域づくりを願う。
- 支援に係る全ての職員が統一した支援ができるよう、マニュアルの周知徹底のため、デジタルツールの導入も今後は必須だと思う。
- 変化に付いて行けない施設は淘汰されて行くのではないのでしょうか？
- 一般的に「悪い(不適切)」とされることをどのように伝えて行けばよいか知りたい
- 色々な支援の仕方を知りたい。
- みらいでの支援をしているので自閉スペクトラム症にも症状がそれぞれ(成長と共に)違うので気をつけています。
- パニック時の対応の仕方が難しいと感じました。